

重誓寺報

第29号 平成26年8月発行

浄土真宗 本願寺派 (西本願寺) **重誓寺**
じゅうせいじ

大阪市旭区中宮2丁目4番19号
電話・FAX 06(6951)0090



不便益ふべんえきという言葉聞いたことがあるでしょうか？
不便な中から有益なことを見出そうということ、京都大
学を中心に研究されている学問です。先日あるお寺でお話
があり、日頃聞けない内容を聞かせていただきました。
世の中には便利になり過ぎて、楽しみや嬉しさを忘れて
しまったものが沢山あります。例えば、マニュアルの自動車。エンピツ
をナイフで削る。エアコンを使わずに自然の風を取り入れるなど・・・
別に新しい技術を排除したり、ノスタルジーを感じることはないよ
うで、新しい中にも不便な要素を残し、手間をかけることによつて得ら
れる嬉しさや楽しさを求める。しかもそこに「いいこと」があれば一層
値打ちがあるというのです。
パソコンや携帯を使うようになり、明らかに漢字を忘れるようになり
ました。ナビを使うようになり、道を覚えなくなりました。確かにこれ
らを使えば困ることはないのですが、それを否定するではありません。し
かしそのような便利さを得る一方で、漢字を覚え書けるようになったと
きの喜びや、迷いながら目的地に辿り着いた道中で、穴場の店を発見し
た嬉しさなどが失われることが残念なのです。このように「便利害」を
考える中で、「不便益」という概念が生まれたそうです。
現代の私たちは、進歩し便利になって、何でも出来るような勘違いを
していることがあります。しかし一度立ち止まって、今生きている私た
ちが、何を求め、どこに向かって行くのかを確認する時間も必要なの
ではありませんか？



ご家族皆様さんでお読み下さい

法座のご案内

重誓寺では毎月、二十日

(三、五、九、十一月は二十日、二十一日)

法座が勤まります。

勤行約三十分、法話約一時間

浄土真宗にとって一番大切なことが、
仏法を聞くこと、いわゆる聴聞であります。
椅子席でお参りいただけます。

常例法座

八月二十日(水) 二時、七時三十分

講師 石川 欣也 師

秋季永代経会法要

九月二十日(土) 二時、七時

二十一日(日) 二時

講師 巖水^{いわみず} 法乗 師

常例法座

十月二十日(月) 二時、七時

講師 宏林 晃信 師



心に残った法話のお言葉

お寺に参らせて頂けると言うことは、先祖がお寺、仏法、お念仏を大切にされて来られたからです。私をそうせずにはおられない、ご先祖、阿弥陀さまからの他力が働いており、そこから一声のお念仏が出てくるのです。(四月 藤岡良治師)

「弥陀の救いは、親鸞一人がためなり」と言われました。全ての人を救うと誓われた阿弥陀さまの働きが、私一人を救えないのなら全てとは言えません。一人一人を漏れなく救うことが弥陀の誓願なのです。(五月 高澤正文師)

人によって信心が違おうと言うのは、自分の力で信じるという自力の信心です。しかし他力の信心は善人でも悪人でも、阿弥陀様より頂いたものですから、誰の信心も異なるものではありません。と法然聖人が述べられたと御伝鈔^{ごでんしょう}に説かれています。(六月 平戸昭乗師)

私たちは過去や未来を生きているのではなく、永遠の「今」を生きているのです。今、目の前にある生活や環境は変わらないかも知れませんが、その味わいが変わって行くのが信仰の結果なのです。(七月 寺本正師尚)

親鸞聖人 和讃の教え

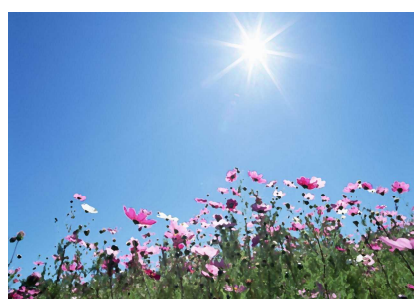
弥陀成仏のこのかたは

いまに十劫をへたまえり

法身の光輪きはもなく

世の盲冥をてらすなり

(浄土和讃)



生きとし生けるものを救うと誓われた阿弥陀如来は、十劫という遙か昔に仏と成られ、私たちの欲望・憎悪・迷妄といった煩惱の闇を、智慧によって破り、慈悲のよって包む、真実の光りと成られて、この世の迷える者を照らし続けてくださる。

正信偈のお勤めで、よく一緒に読まれる和讃です。親鸞聖人は、それまで漢文が中心であったお経を、分かりやすく親しみのある和語を用いて書かれた讃歌が和讃です。

聖人は晩年、多くの和讃を残され、「三帖和讃」(浄土和讃・高僧和讃・正像末和讃)は八代目蓮如聖人によって、正信偈とともに用いられるようになりました。古来お仏壇には、御文章箱と共に、和讃箱が備えられ、日々順番に読まれていました。

ある方とのお話の中で、「写経とかすると煩惱が無くなりますか」と言うようなお話が有りました。もちろん写経は、仏様のお言葉を書く事で仏徳讃嘆であり、自分自身も清らかな気持ちになれることです。しかし残念なことに、私たちはそこから一歩外に出ると今までの欲やそねみ、ねたみが再びふつふつと沸き上がって来ます。煩惱は私たちがこの世に生きていく限り、切り離せないものなのです。

阿弥陀様は、そのような煩惱具足の凡夫であるからこそ、捨てずにはおられないと浄土を作り、私たちに真実の光りで照らし続けて下さっているのです。



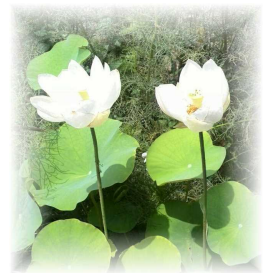
七月末、息子と二人で北海道旅行に行つて来ました。

伊丹から飛行機で二時間、小樽で一泊、札幌から帰途へという滞在は短いものでしたが、帰りは念願のトワイライトエクスプレスという寝台列車に乗り、約二十三時間の長旅でした。

奇しくも予約した後になつてから、列車の廃止が決まり、来年には姿を消すことになつてしまいましたので、この機会を逃すと乗ることは出来なかつたかと思ひます。



再来年には北海道新幹線が開通し、速く便利になることかと思われませんが、一方では九州のななつ星のように、ゆつたりとした列車の旅も見直されてきました。何事もスピードアップだけが求められるのではなく、時にはゆとりも必要ですね。



蓮の花がたくさん咲きました。蓮は泥水の中から美しい花を咲かせる姿が仏の智慧や慈悲の象徴とされ、阿弥陀様も蓮台の上に立つておられます。

重誓寺 HP <http://juseiji.net> E-mail info@juseiji.net
 寺報はバックナンバーを含め、ホームページでご覧いただけます。
 ご意見、ご質問等がありましたら、メールでもお寄せ下さい。